

**令和5年度奨学生 留学体験記** (2024年2月～12月チリ)

「日本に着いたらパパとママとハグするんだよ」帰国前、ホストファザーと2人で話したときに私に言った言葉だ。私はその言葉を胸に、飛行機に乗った。

着いたらまずハグしよう。そして空港に着き、私は家族とハグをした。留学前の自分だったらママはともかくパパとハグなんて照れくさくてできなかっただろう。私が帰国して最初に自分の変化を感じた瞬間だった。

それから日本でしばらく生活してみると、私自身も周りの人も私の変化を感じているようだ。例えば、私は留年をして1つ下の学年にいる。もちろん登校初日は緊張したが、それでも自分からクラスメイトに話しかけ友達を作ることができた。留学前の私だったら1つ下の学年、全く知らない人に話しかけるのはとても難しいことだったと思う。他人とコミュニケーションを取ることに壁を感じなくなったのは、チリでたくさんの人の優しさに触れたからだ。

以前の私は本当に信頼している人以外とコミュニケーションをとることが苦手だった。少し人間不信な部分があったと思う。そのせいでチリでもホストファミリーと仲を深めるのに時間がかかった。私がファミリーを十分に信用することができなくて内向的になっていたときも、マザーは部屋にきて話かけてくれたり、ファザーは映画を見るのを誘ってくれたりもした。親戚の誕生日パーティーにいくと、その人たちも積極的に私に話しかけてくれ、とても親切にしてもらった。学校でも私が会話の内容をわかっているかを聞いて、私にわかるように説明してくれる友達もいた。

私はたくさんの人の優しさのおかげで10ヶ月間チリで過ごすことができ、次第に人を信用できるようになった。現地で異文化を体験したことや、言語を学んだことも大きいですが、1番の収穫は、人の優しさを知ったことだ。この留学をする機会を与えてくれた家族、AFS、新潟市国際交流協会、たくさんの思い出と経験をくれたチリの家族、友達・・・私に関わってくれた全ての人に感謝するとともに、自分がもらった以上の恩を返せる大人になることをここに宣言したい。

